

# 家 庭

## 改訂のポイント 1

### 教科の目標の改善と必修科目の改訂

#### 1 教科の目標

教科の目標は次のように改善された。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的態度を養う。

教科目標については、今回の改訂の基本方針を踏まえ、育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、全体に関わる目標を柱書として示されるとともに、(1)として「知識及び技能」を、(2)として「思考力、判断力、表現力等」を、(3)として「学びに向かう力、人間性等」の目標を示された。

従前の家庭科の目標の趣旨を継承するとともに、少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進、成年年齢引下げ等への対応を一層重視し、生活を主体的に営むために必要な理解と技能を身に付け、課題を解決する力を養い、生活を主体的に創造しようとする実践的

な態度を養うことにより、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指している。共通科目「家庭」における見方・考え方は次のように示されている。

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

「実践的・体験的な学習活動を通して」とは、家庭科における学習方法の特質を述べたもので、生活を営む上で必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などの内容について、理論のみの学習に終わることなく、調理、製作等の実習や観察、調査、実験、演習などの実践的・体験的な学習活動を通して学習することにより、習得した知識及び技能が生徒自らの生活に活用することを意図している。

「様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のように育成する」とは、男女共同参画社会の推進を踏まえて、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解するとともに、生活に必要な知識と技能の習得を通して、共に支え合う社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身に付け、男女が協力して家庭を築いていくことを認識させ、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てることを示している。

(1)については、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けることが示されている。

(2)については、生活の課題発見、解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善、家庭・地域での実践のような学習過程を通して、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することにより、課題を解決する力を養うことを明確にしたものである。

(3)については、家庭科の学びを通じて、よりよい社会の構築に向けて、様々な人々と協働して生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養うことを明確にしたものである。これら育成を目指す三つの資質・能力は、偏りなく実現できることが大切であり、そのためには、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、これら三つの柱を相互に関連させることにより、家庭科全体の資質・能力を育成することが重要である。

## 2 科目編成の改善

生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じて選択して履修させることを重視し、「家庭基礎」（2単位）、「家庭総合」（4単位）の2科目が設けられた。各学校においては、複数の科目を開設して生徒が選択できるようにすることが望まれる。

### 改訂のポイント 2

#### 「家庭科」の主な改善事項と各科目の改善事項

##### 1 「家庭科」の主な改善事項

- (1) 科目の導入として、「生涯の生活設計」の項目を新たに設け、AからCまでの内容と関連付けるとともに、まとめとしても指導することを明記。
- (2) 現在を起点に将来を見通したり、自己や家族を起点に地域や社会へ視野を広げたりできるように指導することを明記。
- (3) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ることを明記。

##### 2 各科目の改善事項

###### (1) 科目の内容構成

小・中・高等学校の系統性を踏まえ、「家

庭基礎」、「家庭総合」とともに、内容構成を「家族・家庭及び福祉」、「衣食住」、「消費生活・環境」に「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を加えた四つに整理された。

###### (2) 「家庭基礎」

人の一生を見通しながら自立して生活する能力と異なる世代と関わり共に生きる力を育てることを重視され、子どもを産み育てることや子どもと関わる力を身に付けるなどの乳幼児期に関する内容や、高齢者の生活支援技術の基礎に関する内容を加えるなどの改善が図られた。

衣食住については、自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な内容に重点が置かれた。

###### (3) 「家庭総合」

従前の家庭総合に比べ、乳幼児との触れ合いや子どもとのコミュニケーション、高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技能、衣食住については、生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させることに重点を置き、グローバル化に対応した日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関わる内容の充実が図られた。

(4) いずれの科目においても、「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」の(1)に生涯の生活設計を導入として位置付けるとともに、成年年齢の引下げを踏まえ、「C 持続可能な消費生活・環境」において、契約の重要性や消費者保護に関する内容の充実が図られた。

(5) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を引き続き重視するとともに、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実が図られた。

## 改訂のポイント 3

### 各科目の内容改善

#### 1 「家庭基礎」

今回の改訂においては、学習内容の構成を「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」、「B 衣食住の生活の自立と設計」、「C 持続可能な消費生活・環境」に「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を加えた四つに整理した。

また、生涯の生活設計の学習を科目の導入としても学習することで、現在を起点に将来を見通し、ライフステージに応じた衣食住の生活に関わる理解や技能の定着や、生涯にわたってこれらの力を活用して課題を解決できるよう内容の改善がなされた。

「家庭基礎」の目標は、次のように改訂された。

#### 「家庭基礎」（現行）の目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。



#### 「家庭基礎」（新）の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生を家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

家庭科の特質である実践的・体験的な学習活動を充実させることを目標の柱書に位置付け明確に示された。

「内容の取扱い」については、実験・実習を中心とした指導を行うよう留意することは従前と同様である。今回の改訂において、内容のAからCまでについて、生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な学習活動を充実するとともに、生活の中から問題を見だしその課題を解決する過程を重視すること。また、現在を起点に将来を見通したり、自己や家族を起点に地域や社会へ視野を広げたりして、生活を時間的・空間的な視点から捉えることができるよう指導を工夫すること。さらに、内容Cの指導に当たっては、A及びBの内容と相互に関連を図ることができるよう工夫することが追加された。

内容のAの(4)「高齢期の生活と福祉」においては、認知症にも触れ、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護についての理解、体験的学習を行うことが追加された。内容のBにおいては、日本と世界の衣食住に関わる文化に触れ、日本の生活文化の継承・創造の重要性の理解が内容に追加され、さらに(2)「衣生活と健康」においては、快適な衣生活を営むことに関連し被服衛生についても扱い、(3)「住生活と住環境」においては、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について扱うことが追加された。内容のCの(1)「生活における経済の計画」においては、家計管理についての理解が追加され、(2)「消費行動と意思決定」においては、多様な契約やその義務と権利についても取り上げ、消費者信用及び問題についても扱うことが追加された。

内容のD「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」においては、引き続き重視することとし、家庭科の授業の一環として、年間指導計画に位置付けて実施すること、家庭科の授業の早い段階に意義と実施方法を理解させることが明記された。

## 2 「家庭総合」

今回の改訂においては、小・中・高等学校の系統性を踏まえ、学習内容の構成が「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」、「B 衣食住の生活の科学と文化」、「C 持続可能な消費生活・環境」に「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を加えた四つに整理された。

また、生涯の生活設計の学習を科目の導入としても学習することで、現在を起点に将来を見通し、ライフステージに応じた衣食住の生活に関わる理解や技能の定着はもとより、生活文化の継承・創造の観点から内容を充実するとともに、従前の「生活デザイン」の趣旨を継承し、生活の価値や質を高めつつ、豊かな生活を楽しむことができる実践力を育成することを重視して内容の改善が図られた。「家庭総合」の目標は、次のように改訂された。

### 「家庭総合」（現行）の目標

人の一生と家族・家庭、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。



### 「家庭総合」（新）の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生を家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

(3)については、生活文化を継承する観点から、生活文化についての理解を深め、今の時代に生かし、次の時代に継承し新たな生活文化を創り出す視点や実践的な態度を育てることが大切であると示された。

従前の「家庭総合」の大項目(2)「子どもや高齢者との関わりと福祉」が様々な人との関わりを重要視し、内容のAの(3)「子供との関わりと保育・福祉」、(4)「高齢者との関わりと福祉」となり、さらに地域との関わりを重要視し、(5)「共生社会と福祉」については、自助、共助及び公助についての理解を深めることが追加された。

従前の「家庭総合」の大項目(4)「生活の科学と環境」と従前の「生活デザイン」の大項目(5)「住生活の設計と環境」が統合され、内容のBの「衣食住の生活の科学と文化」となり、(1)(2)(3)について、それぞれ日本や世界の文化を扱い、人との関わりについて理解を深めることが追加された。

従前の「家庭総合」の大項目(3)「生活における経済の計画と消費」と(4)「生活の科学と環境」が改編され、内容のCの「持続可能な消費生活・環境」となった。

「内容の取扱い」については、学校や地域実態等に応じて、学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、幼稚園、保育所及び認定こども園など乳幼児、近隣の小学校の低学年の児童との触れ合いや交流の機会をもつことや福祉施設などの見学やボランティア活動への参加をはじめ、高齢者との交流の機会をもつように努めることについては変更はない。

内容のCの指導に当たっては、A及びBの内容と相互に関連を図ることができるよう工夫すること。(2)については、消費生活に関する演習を取り入れるなど、理解を深めることができるよう努めることが追加された。

## 改訂のポイント 4

### 指導計画の作成と内容の取扱い

従前と同様に、各科目の総授業時間数のうち、原則として10分の5以上を実験・実習に配当すること。その際、実験・実習には、調査・研究、観察・見学、就業体験、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流活動などが含まれる。

「家庭基礎」は、原則として同一年次で履修させる。また、「家庭総合」を複数の年次に分けて分割して履修させる場合には、原則として連続する2か年において履修させること。

家庭科の指導に当たっては、中学校技術・家庭科を踏まえた系統的な指導に留意し、高等学校公民科、数学科、理科及び保健体育科などとの関連を図ることが求められる。

今回の改訂において、以下のことが追加された。

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ること。その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解

するとともに、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

地域や関連機関等との連携・交流を通じた実践的な学習活動を取り入れるとともに、外部人材を活用するなどの工夫に努めること。障がいのある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

## 改訂のポイント 5

### 各科目の内容構成

小・中・高等学校の系統性を踏まえ、「家庭基礎」、「家庭総合」とともに、内容構成を「家族・家庭及び福祉」、「衣食住」、「消費生活・環境」に「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を加えた四つに整理された。

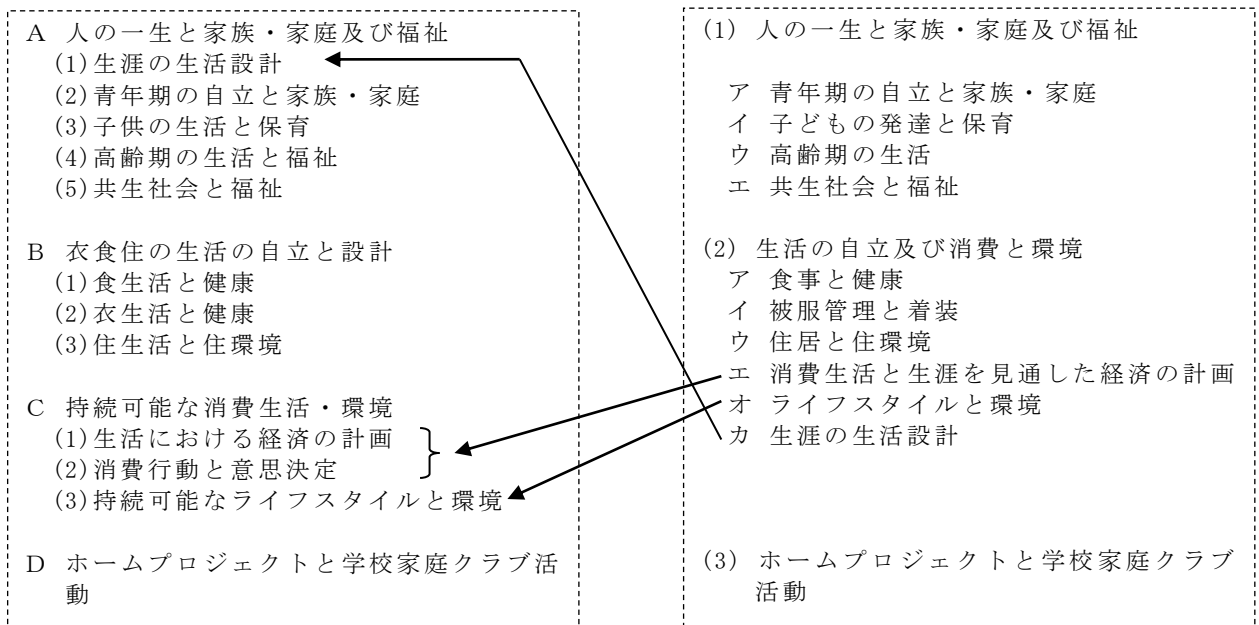
### [資料] 新課程と現行課程の項目比較

#### ○「家庭基礎」(新)

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉
  - (1) 生涯の生活設計
  - (2) 青年期の自立と家族・家庭
  - (3) 子供の生活と保育
  - (4) 高齢期の生活と福祉
  - (5) 共生社会と福祉
- B 衣食住の生活の自立と設計
  - (1) 食生活と健康
  - (2) 衣生活と健康
  - (3) 住生活と住環境
- C 持続可能な消費生活・環境
  - (1) 生活における経済の計画
  - (2) 消費行動と意思決定
  - (3) 持続可能なライフスタイルと環境
- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

#### ○「家庭基礎」(現行)

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉
  - ア 青年期の自立と家族・家庭
  - イ 子どもの発達と保育
  - ウ 高齢期の生活
  - エ 共生社会と福祉
- (2) 生活の自立及び消費と環境
  - ア 食事と健康
  - イ 被服管理と着装
  - ウ 住居と住環境
  - エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画
  - オ ライフスタイルと環境
  - カ 生涯の生活設計
- (3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動



○「家庭総合」(新)

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉
  - (1) 生涯の生活設計
  - (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会
  - (3) 子供との関わりと保育・福祉
  - (4) 高齢期との関わりと福祉
  - (5) 共生社会と福祉
- B 衣食住の生活の科学と文化
  - (1) 食生活の科学と文化
  - (2) 衣生活の科学と文化
  - (3) 住生活の科学と文化
- C 持続可能な消費生活・環境
  - (1) 生活における経済の計画
  - (2) 消費行動と意思決定
  - (3) 持続可能なライフスタイルと環境
- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

○「家庭総合」(現行)

- (1) 人の一生と家族・家庭
  - ア 人の一生と青年期の自立
  - イ 家族・家庭と社会
- (2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉
  - ア 子どもの発達と保育・福祉
  - イ 高齢者の生活と福祉
  - ウ 共生社会における家庭や地域
- (3) 生活における経済の計画と消費
  - ア 生活における経済の計画
  - イ 消費行動と意思決定
  - ウ 消費者の権利と責任
- (4) 生活の科学と環境
  - ア 食生活の科学と文化
  - イ 衣生活の科学と文化
  - ウ 住生活の科学と文化
  - エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立
- (5) 生涯の生活設計
  - ア 生活資源とその活用
  - イ ライフスタイルと生活設計
- (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

○「生活デザイン」(現行)

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉
  - ア 青年期の自立と家族・家庭
  - イ 子どもの発達と保育
  - ウ 高齢期の生活
  - エ 共生社会と福祉
  - オ 子どもとの触れ合い
  - カ 高齢者とのコミュニケーション
- (2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立
  - ア 消費生活と生涯を見通した経済の計画
  - イ ライフスタイルと環境
  - ウ 生涯の生活設計
- (3) 食生活の設計と創造
  - ア 家族の健康と食事
  - イ おいしさの科学と調理
  - ウ 食生活と環境
  - エ 食生活のデザインと実践
- (4) 衣生活の設計と創造
  - ア 装いの科学と表現
  - イ 被服の構成と製作
  - ウ 衣生活の管理と環境
  - エ 衣生活のデザインと実践
- (5) 住生活の設計と創造
  - ア 家族の生活と住居
  - イ 快適さの科学と住空間の設計
  - ウ 住居と住環境
  - エ 住生活のデザインと実践
- (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動